

令和3年7月21日

令和2年度 学校関係者評価報告書

学校法人後藤学園
専門学校武蔵野ファッションカレッジ
学校関係者評価委員会

学校法人後藤学園専門学校武蔵野ファッションカレッジ「学校関係者評価委員会」は、令和2年度自己点検・自己評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下の通り報告致します。

学校関係者評価委員（「専門学校武蔵野ファッションカレッジ学校評価要綱」による選出）

- ・学校の専門分野における業界関係者（同第5条第2項第1号）
田中 大資 氏 株式会社クレヨン 代表取締役
星野 玲 氏 株式会社東京芸夢 経営管理部 人事課
- ・卒業生（同第5条第2項第2号）
古本 舞 氏 萬リンク株式会社 代表
- ・高等学校校長、進路指導担当者等（同第5条第2項第3号）
石井 久美子 氏 東京都立向丘高等学校 副校長

令和3年7月21日

令和2年度自己点検・自己評価報告書

専門学校武蔵野ファッションカレッジ

基準1 教育理念・目的・育成人材像等	
【現状と課題】	<p>本校の教育目標は『優れた人格と実践力をもった人材を生み出すこと』と定めており、</p> <p>実践力の定義としては『ファッションの専門性と社会人基礎力が融合したもの』としている。</p> <p>インターネット等のテクノロジーの進化により人々の生活が変わりファッション・アパレル業界も変わってきている。時代に合った職業教育の実現のために企業と連携し教育のレベルアップを目指す。</p>
【改善のための方策】	<p>ファッション業界と整合性をもった人材育成としていくため、企業との連携を積極的に活用していく</p>
【関係者評価】	<p>連携企業の幅を広げても良いと思います。製造小売系だけではなく例えば縫製工場や衣装製作企業など学生にとって目指す職種の明確化を図り就学中に目標と指導内容を定めやすくすることが必要だと感じます。また、学生が企業の現場に直接訪問し実務を見学して就職後の姿を想像させやすくする、販売職対象にしたロープレコンテストのように、デザイナーやパタンナー希望者にも同様の企業評価機会を設けることで学生も実務を知る機会になると思います。時節柄難しいとは思いますが、テキスタイル産地の機屋なども見学できれば学生にとって良い経験になると思います。全員訪問は難しいと思いますので例えば企業評価機会で優秀な成績だった学生の副賞にするなどして、学生のモチベーションを上げることも大切だと思います。</p>

基準 2 学校運営	
【現状と課題】	<p>授業の他に進路ガイダンスへの教員派遣、学校見学の対応など学生募集に関する業務も多く、運営は余裕のある体制ではない。教務部の業務運営の効率化・優先課題への取り組み体制を整備する事が必要と考え、教員がユニットを組み業務を進めるワーキンググループの導入を計画したが、育児休暇取得者や急な退職者が出るなど組織体制のバランスを崩した事と、コロナ禍のイレギュラーな運営となり導入までは至らなかった。全員で取り組む体制で業務を進め教務部内のミーティングを適宜行い共通認識の上で学校運営を行った。人員的な不足は助手の採用で補い学校運営に支障はなかった。</p>
【改善のための方策】	<p>業務運営の効率化・優先課題への取り組み体制としてワーキンググループの導入を継続していく。</p>
【関係者評価】	<p>企業でも本部の人手不足はよくありますが、その場合は業務の棚卸しをして、いま本当に必要な業務だけに絞ることや、兼務できる業務をまとめること、業務と外部に委託する業務（アウトソーシング）に分けて効率化を図るなどをして最優先事項が滞らないようにすることをしています。学校でもそのような取り組みが必要かと思います。企業運営と学校運営は同じではないと思いますので一概には言えませんが。自社でも本部で複数部署に担当が分かれています。情報共有は当然でそれ以上に価値観や判断基準の同一化を指示しています。誰でもほぼ同じ判断と行動をとることができれば効率化と良い結果が生まれると思います。</p>

基準3 教育活動	
【現状と課題】	<p>企業との連携授業を発展させ、職業教育充実の充実をはかり本学の特徴作りに取り組んだ。企業側の協力により従来から発展した内容での実施となり企業側も社会貢献として継続した協力をしていきたいと言って頂き今後の発展が期待できる状況となった。</p> <p>期間限定ショップは社会人基礎力育成の場でもあり、運営システムは今の学生の気質を考慮した形で再設計していくことを目指したが、コロナ禍での運営となり運営目標を修正し、感染予防をとった店舗運営をテーマにして実施。</p>
【改善のための方策】	<p>企業との連携授業の継続的实施。企業側の協力のしやすい運営、協力方法の検討。</p>
【関係者評価】	<p>在校生と話をしてアパレル業界にどのような仕事、職種があるかということをおまわり知らないと感じました。そこを理解させる授業を入れるべきではないかと思ひます。それにより学習意欲が向上し、就職率の向上、退学率の減少にもつながるのではないかと思ひます。</p> <p>企業現場の意識が根付くような授業と企業連携で学生にとって良い学びになる機会が増えれば良いと思ひます。</p> <p>期間限定ショップ運営については、大きなテーマだけ学校側から提示して、運営方法や告知方法などを学生から提案させて運営主体を学生にすれば自主性や協調性がより強まると思ひます。チーム分けをしてチームごとに競わせるなども学生のモチベーションアップになるかと思ひました。採用面接の際にもよく学生に質問しますが「学生時代に頑張ったこと」がほとんどアルバイトやクラブ活動で、「授業」や「学校行事」と答える応募者は少なく感じます。学校での体験が学生にとって頑張ったことと言えりぐらひのモチベーションで頑張ってもらえれば良いと思ひます。</p>

基準4 学修成果	
【現状と課題】	<p>就職希望者に対する就職率目標 100% → 結果 85.4%</p> <p>学生それぞれの長所、短所に合わせた就職支援を行い一層の充実をはかることを行った。コロナ禍において求人数減少により数値的には厳しい状況となったが、オンライン面接の指導や未決定者との面談の回数を多く取ることで厳しいながらも今回の内定率まで上げることができた。未決定者には卒業後も支援は継続して行っている。</p> <p>1年生については就職指導の強化として指導時期と企業情報の提供を早めに行った。就職意欲は高まり例年に比べ積極的に動く学生が増え、順調にスタート出来た。</p>
【改善のための方策】	<p>就職活動に遅れが出る学生は出てしまう。また、学生たちの気質は年々個人主義が強くなり個別に話をしていかないと伝わらない傾向である。今後もより一層、個別指導を強化することが必要である</p>
【関係者評価】	<p>オンライン面接に対して家庭で設備が整っていない学生に対し学校設備利用の協力やオンライン面接対策指導も行なっていることはとても良いと思います。</p> <p>1年生の早い段階で、インターンシップなど、企業との関わりを持つことで育成されると思われるのでその機会を積極的に作ってはどうかと思います。様々な人との人間関係を構築している学生は経験に基づいた発言ができるため、就職面接でも有利です。</p> <p>採用面接の際に「学生時代に頑張ったこと」の質問に対し、ほとんどアルバイトやクラブ活動で、「授業」や「学校行事」と答える応募者は少なく感じます。教育内容に関わりますが、学校での体験を答えられるようになると良いと思います。</p> <p>早めの意識作りが大切です。仕事の理解がないので面接の際に視野が狭いことを感じます。自分の将来について考えられるように業界の仕事内容を改めて伝えることに取り組んではどうでしょう。</p>

基準5 学生支援	
【現状と課題】	<p>退学率目標 4%以内 → 結果 11.4%</p> <p>問題を抱えた学生やその兆しのある学生に対し学校としての対応方針を決める「教育相談」の実施を計画。毎月1回の定期的運営を予定していたが、コロナ禍の学校運営の難しさもあり、予定通りの実施はできなかった。それを補う為に適時ミーティングを行い共通認識と担任だけに負担をかけない組織的な対応に努めた。</p> <p>学費未納による退学を防ぐため、奨学金利用者への利用指導を計画。</p>
【改善のための方策】	<p>高校までの学校生活に問題を抱えている学生も入学している現状である。問題学生への支援体制を整備していく。教員だけでなくスクールカウンセラーも交え、定期的な教育相談の実施。</p>
【関係者評価】	<p>コロナ禍において、学生以外にも社会的な問題として、将来に対する漠然とした不安感や焦燥感に駆られ精神的に追い込まれる人が増えている実態については日々感じることも多く、学生の場合はそういった不安感に増し、就職活動における不安材料も多く、一層追い込まれてしまうのだと推測しますが、将来を担う世代のためにあらゆる可能性や具体的な職業分野について示すことは現場で実践を重ねている者としては、それが役目であり必要なだろうと、微力ながら感じました。</p> <p>企業でも退職は避けられないことで、メンタルヘルスや家庭の事情などはどうにもできないこともあると思います。それ以外で退職者が多く出る店舗や部署に共通することは店長や責任者とのコミュニケーション不足です。業務的なミーティングだけでは本人の悩みは解決できず、店長や責任者の意識や考え方を理解できず辞めていくケースが多いように思います。双方が同じ想いや考えで一緒に真剣にやっている、という気持ちを普段のコミュニケーションの中に取り入れることが大切だと思います。</p> <p>コロナ禍で学生の家庭の経済状況が悪化するケースもあります。その状況下でも学費の未納が退学理由として上がっていないのは良かったともいます。</p>

基準6 教育環境	
【現状と課題】	<p>安心・安全な教育環境の整備を目指す。校舎の老朽化による破損箇所が多く出ているが、担当部署がスピーディーに対応し環境整備に努めている。老朽化により根本的な解決にならない箇所も出ている。</p> <p>課題であった「立体裁断ボディ購入」「CADバージョンアップ」は補助金等の利用も行い計画通り行うことができた。各教室にプロジェクターの設置は教室の利用計画を再考してから導入することとした。</p>
【改善のための方策】	<p>学びやすい環境づくりとして、各教室にプロジェクターの設置。照明設備の改修を行う。</p>
【関係者評価】	<p>校舎の老朽化はあるでしょうが清掃や修繕が行き届き綺麗に使われていると思います。</p> <p>環境は企業によって様々ですが、実務に基づいた設備環境があったほうが学生には良いと思います。パタンナーのCAD、デザイナーのOffice、Adobeは使えた方が実務に有利だと思います。自社も全店にiPadを導入しており商品情報や本部指示関係など、原則ペーパーレスにしています。どの職種の実務にも必要なメールのデータ添付、Excelは、学生時代から慣れておき使えるに越したことはないと思います。</p>

基準7 学生の募集と受け入れ	
【現状と課題】	<p>令和3年度入学者数目標 80人 → 結果 53人</p> <p>「職業実践専門課程」認定学科の強みを生かす募集活動の実現と学生満足度の広報的利用を計画したが、コロナ禍の状況により体験入学への参加者が減少し、計画していた本校の魅力を伝えるまで至らない状況となった。</p>
【改善のための方策】	<p>情報発信の見直し、相手に伝わる方法、内容の検討が必要である。</p>
【関係者評価】	<p>現在は東アジア諸国の台頭とともにファッション分野もさほど日本が注目を集めているとは思いませんが、もし未だ学びの分野においては価値のある存在であれば、積極的に留学生を受け入れていくことも学生確保の手段の一つではないかと思えます。</p> <p>高校生の目に触れる機会や認知を増やす、他校との違いを明確にして入学したい魅力を増やすなどあれば良いと思いました。高校生と世代が近い在校生を前面に出して高校生が入学したことを想像しやすくすることも大切かと思いました。また時代に応じたSNS（Instagram、Twitter）の充実は圧倒的に必要だと思います。YouTubeやInstagramでの動画を使った学校紹介、在校生のインタビュー、就職後の元学生の活躍、授業風景、成果発表の場など、高校生の感度に触れるような機会は増やすべきだと思います。</p> <p>高校側の意見として、広告にお金をかけている学校には生徒に薦めない指導をしています。学費が広告費になっていることがわかります。これからも正しい情報発信して頂き、高校側も正しい情報を得るようにしたいと思います。</p>

基準8 財務	
【現状と課題】	<p>原資である入学者確保への業務強化。学費滞納、未納の防止対策制度の整備。</p> <p>課題としていた学内の滞納・未納の防止対策制度を構築するまでには至らなかったが、奨学金新制度の利用もあり例年よりは問題となるケースは減少した。</p>
【改善のための方策】	<p>収入増のための入学者を増やす努力と予算削減のため優先順位を精査した予算組みと予算執行を行う。</p>
【関係者評価】	<p>企業にとって売上高確保が必要であると同様に、学校にとっては授業料の確保が絶対に必要だと思います。極論ですが、基準7「学生募集」の応募数、入学者数の目標人数確保のために他の基準を整備する、他の基準の整備が入学者増に繋がる、という考え方で進めても良いと思いました。個人的には、入学者の目標達成と授業料の確保が最重要だと感じました。</p>

基準 9 法令等の遵守	
【現状と課題】	平成 28 年度に文科省委託事業「分野別第三者評価」を試行としてはあるが受ける機会を得て受審をした。産業界、同分野校から厳しい視点での評価であったが、「職業実践専門課程として適切な運営がなされている」と評価を受けている。現在はその維持に努めている。現在は法令の遵守に関しては特に課題はないが、その為の教務事務的業務が増えており負担が多くなっている。
【改善のための方策】	教務部内に教育と教務事務を行える人材の育成に取り組んでいきたい。
【関係者評価】	現在問題はないと判断します。職業実践専門課程維持の為の業務は大変でしょうが業務の割り振り等を工夫して取り組んでください。

基準10 社会貢献	
【現状と課題】	SDGs への取り組みが求められる社会において、社会貢献意識は職業教育の要素である。企業による SDGs の事例を伝える特別講義を計画したがコロナ禍でもあり進行が難しかった。SDGs は媒体でも頻繁に企業の取り組みが紹介されており、それを利用して学生達の目に触れる環境としていった。また、現代社会の流れとして学生の意識に浸透し関心を持っている学生も多くなっている。
【改善のための方策】	SDGs・社会貢献意識は一過性としなない継続した問題意識を持たせる事が必要
【関係者評価】	<p>在校生と話をしてみて、社会が抱える様々な問題について非常に関心を持っているという印象を受けました。それだけ現実的に問題が大きくなってきていることの証でもあるのだと感じ、今後ファッション業界もそういった課題点を無視して過ごすことはできないのだろうと改めて学ばせていただいたと共に、専門学校のカリキュラムでも積極的に多くの時間を割き、社会貢献に関する授業を行って欲しいと考えます。</p> <p>SDGs への取り組みは企業によって様々ですが、世界基準になりつつある昨今では避けて通れない取り組みだと思います。自社では商品廃棄をそもそも前提にしない商品づくりと販売を徹底しており、それも一つの SDGs の考え方だと思います。学生の意識も高まっているようであれば SDGs に特化した授業を設けることも良いかと思いました。どういったことが環境に良いのかを考えた作品に反映させるなど。洋服は作るだけで多かれ少なかれ環境汚染には繋がります。それをいかに減らすか、作った後も環境に良いことは何かをリユースやリサイクル、古着のリデザイン、日本の古き良き習慣など含めて考えて作品に活かすことも大切かと思っています。</p> <p>SDGs は壮大な取り組みの話になりがちですが、身近な取り組みから行うべきだと思います。SDGs に関する特別講義などは新聞社の記者の方に依頼すると費用面、内容ともに協力は得やすいですとと思います。</p>

以 上